

# 令和6年度 学校経営計画書

西栗倉村立西栗倉小学校長 高本 英樹

## 1 本校のミッション（使命、存在意義）

〈学校教育目標〉「ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 自ら学ぶ 児童の育成」

- 未来社会の基盤となる人材育成こそ我々の使命であり、教育活動を通じて、郷土を愛し、地域を担う「持続可能な社会の作り手」の育成を目指す。
- その実現には、西栗倉村の「百年の森構想」の理念に基づいた村教育方針を幼小中一貫教育として、家庭や地域と連携して行う。
- そのために、学校教育目標と指導の重点に基づき、知・徳・体のバランスのとれた、人間性豊かな児童の育成を目指す。
- さらに、西栗倉村の人と環境を生かした教育活動を軸に、良質な体験と温かいつながりを生かして、「自立」と「共生」の力・生きる力を育む。

〈指導の重点〉 【ESDに基づいた活動の深化と発展】

- ①基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の伸長を目指し、学力の向上を図る。
- ②自他を尊重する心の教育の充実を図る。
- ③自ら進んで運動に親しみ、生涯を通じて継続的に運動する能力と態度を育てる。
- ④体験学習や「ふるさと元気学習・給食」を通して、ふるさと西栗倉を愛する心を育てる。

## 2 学校内外の環境分析

- 整備された校舎、広い運動場、豊かな自然と教育環境に恵まれている。
- 明るく素直で、学習活動には真面目に取り組もうとする児童が多い。
- 人前での発表や活動で積極的に参加しにくい児童が多い。
- 基礎的な学習内容が定着していない児童がいる。学力の上位層が少ない。
- 欠席が多く、学校での居場所づくりが必要な児童がある。
- 保護者や地域の人々は、学校教育に対して協力的である。
- 幼小中の合同での研修組織を中軸として連携している。
- 村行政からの教育支援が手厚い。
- 西栗倉村としてSDGsを推進し、ユネスコスクールの認定を受けている。

## 3 ミッションの追及を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

自立に向けた教育の推進は3つのウェルビーイングを目指す

〈めざす児童像〉 児童のウェルビーイング

- かんがえる子（確かな学力）
- やさしい子（豊かな心）
- がんばる子（健やかな心と体）

〈めざす学校像〉 学校のウェルビーイング

- 知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す学校
- 教職員にとってやりがいのある学校
- 保護者や地域社会と信頼関係をもち、共に子どもを育てる学校

〈めざす教員像〉 教職員のウェルビーイング

- 人間性豊かな教職員
- 資質・能力や指導力を常に高める教職員
- 協働して教育活動に取り組む教職員

#### 4 令和6年度の学校経営目標及び重点取組

「自信 チャレンジ つながり 自分みつめ」の力を発揮し、自ら学ぶ子どもの育成

##### (1) 学習面、生活面で落ち着きと自治的風土のある学校づくり

- ①生活の中での課題を「ジブンゴト」として捉え、試行錯誤しながら粘り強く解決する経験や役割を果たし、人の役に立つ経験となる自治的な活動づくりに努める。そのために、自己決定・選択の場面をつくり、出番・役割・承認の場面を取り入れた活動にする。
- ②思いやりや優しさを持ち、違いを認め、共に学ぶ児童を育てるため、異学年や学校外での体験や協働する活動づくりに努める。
- ③誰一人取り残さない全員参加の授業や活動を目指し、居場所づくりと特別支援教育の充実を図る。学級づくりの見える化のため、児童理解や実践交流・研修の場を活用し、取組の交流をする。  
(自立応援室・はあとルーム)
- ④保幼小中一貫教育を目指し、円滑な接続、共同研究と合同行事の充実を図り、小学校での教育活動の改善に生かす。

##### (2) 自ら学びに向かう子を育てる授業づくり

- ①「岡山型学習指導のスタンダード」「西粟倉小スタンダード」をもとに、授業の質的向上と本校の教育課題の解決に焦点を当てた主体的、対話的で深い学びのある授業改善を共通した見える取組として実践する。そのために、児童に学びを委ねる場面づくりの研究を行う。
- ②特に根拠や理由をもって考え、表現することの課題に対して、算数科の研究を通して、思考・判断・表現力を高め、対話的な学びのある授業改善を行う。また、主体的な学びのために家庭学習の在り方を研究する。
- ③目標設定や振り返りから自己を調整しながら、自らを高めようとし、価値ある新たなものを求め、創り出そうとする態度を育てる。(キャリアパスポート)
- ④ESDに基づいた「ふるさと元気学習」「ふるさと元気給食」を軸に、自ら問いを見出す課題発見・解決、探究活動を経験し、主体性、協働性を発揮する場とする。
- ⑤身近な生活、西粟倉村を基盤とし、世界や未来へなど広い視野や新たな価値に触れる学習や活動での体験・交流、発信、双方向の対話を通して、主体的に参加できる活動の充実を目指す。(ふるさと元気学習・給食、英語)
- ⑥ICT機器や情報活用の授業活用を積極的に行い、学習ツールとしてタブレットPCを使用する場面を増やし、児童が効果的な場面で使用できる力を育む。

##### (3) 健康で、安全に過ごせる学校づくり

- ①体育授業の充実、業間体育の実施、外遊びの奨励などに努め、体力の向上を図る。
- ②健康教育(保健・食育指導)、教育相談を充実させ、心身ともに健康な児童を育てる。
- ③安全教育を推進し、交通事故や校内事故を未然に防止する意識と実践力を育てる。
- ④道徳教育、人権教育を推進し、人権尊重の価値観を育み、いじめ等を生まない人間関係づくりと誰一人取り残さない居場所のある、心理的安全な学校づくりに努める。

##### (4) 組織としてまとまりのある学校づくり

- ①学校教育目標の具現化に向け、共通理解と協働による課題解決や目標の達成を目指す。
- ②職責を果たし、互いの能力や特性を尊重し、OJTの実践による人材育成を図る。
- ③生徒指導、事故等の危機管理では、高い意識と組織対応、未然防止策の実施を行う。
- ④働き方改革推進委員会を軸に、業務改善等の具体的方策を検討し、組織的な取組を推進する。

##### (5) 家庭や地域社会に信頼され、共に子どもを育てる学校づくり

- ①保護者や地域の期待に応えるべく、教育活動や学校行事を充実させる。
- ②積極的かつ適切適宜に情報発信を行い、学校教育への理解を広げる。
- ③学校運営協議会を軸に、目指す子ども像を共創し、社会に開かれた教育課程編成と地域全体で子どもを育てる取組を進める。